教　育　長　賞

災害と水

静岡理工科大学星陵中学校

二年　瀧　さん

災害の時に一番と言っていいほど大切なものは水だ。なぜかというと、私達は朝から晩まで水をたくさん使っている。水がない生活なんて絶対に生きていけないと思ったからだ。

以前の私は災害について何も知らなかったし、考えたこともなかった。東日本大震災の時は、私が住んでいる富士市も揺れたり、停電になったりしたそうだが、私はまだとても小さかったので全く覚えていない。

数年前、親が地区の自主防災会の会長になった。地区の人に災害について知ってもらうため、地区の全員に配るおたよりを作成したり、一年に二回ある防災訓練を企画したりしていた。私も一緒に手伝った。その時に一人一日約三リットルの水が必要なことを知った。例えば、私の家族は三人なので、一日九リットルとして一週間ならば六十三リットル、十日ならば九十リットル必要となる。ただし、これは最低限の飲むためや、食事に使う水だ。お風呂、トイレ、食器洗い、歯磨き、洗濯に使う水は含まれていない。東日本大震災の時には二百七十五万戸が断水になり、復旧するのに約六ヵ月半もかかったそうだ。もしも給水車がきたとしても、長い行列ができて何時間も待たなければならない。

私だったら何時間も何もせずに待っていられないかもしれ

ない。待っているだけで体力も精神も疲れ果ててしまうと思う。

この時の経験は今でも大切にし、わが家では災害への対策をたくさんしている。私達家族は現在家に、二リットルのペットボトルの水やお茶を五十本、五百ミリリットルの飲み物十本を備蓄しており、キャップに賞味期限が書かれたシールを貼って、わかりやすくしている。また、災害が起こった時、給水の場が置かれた時用に空のペットボトルを置いてある。さらに、水の備蓄だけではなく、食器を洗わなくて済むように紙皿や紙コップなども備蓄したり、断水に備えて災害用トイレも準備している。体をふくためのウェットティッシュも備えている。これだけ用意しておいても、たったの十日分しかもたないのだ。しかし、これ以上用意したら、置いておく場所もたくさんとらないといけないし、賞味期限の管理もしなければならない。少ないと災害の時に困るが、多すぎると管理が大変なので難しいなと感じた。

私の母の知り合いは、阪神・淡路大震災を経験していて、その時に一番困ったのが水だったそうだ。その方は、今でも毎日お風呂のお湯をすぐに捨てずに残して、次にお風呂に入る時に入れ替えをしているらしい。このようなちょっとのことでも、もしもの時には重要になってくるので、日頃から工夫していくことは大切だと思う。

私の家はマンションなので電気が止まると水も止まる。水を電気でくみ上げているためだ。だから、例えば台風で停電すると、水も止まってしまう。地震だけではなく、台風や津波、火山噴火などのいろいろな災害に対策しておくのもとても大事だと思う。

私達はきれいな水があることをついつい当たり前だと思ってしまう。しかし、災害になると、いつものように使いたい時に使えるわけではない。どうしても必要な時にしか使えない。このことをふまえ、少しずつ対策をしたり、日頃から大切にあつかってみる。こういう行動が、災害の時に命を救うと感じた。さらに、自分だけがこのようなことを知っているだけではいけないと思う。身近な人から広めていきたいと思った。